

## 5-13 東海地方におけるラドン観測 (X)

### Radon Observations in the Tokai District (X)

東京大学理学部

Faculty of Science, The University of Tokyo

前報<sup>1)</sup>にひきつづき、東海地方における地下水中のラドン濃度の連続観測結果(1990年11月～1992年11月)を報告する。

観測点は、第1図に示す竜洋(RYO)、吉田(YSD)、御前崎(OMZ)の3地点である。第2図は各観測点における連続観測の記録で、1時間毎のラドン濃度(積算値)の24点移動平均値を、この期間の平均値に対する相対値で示したものである。

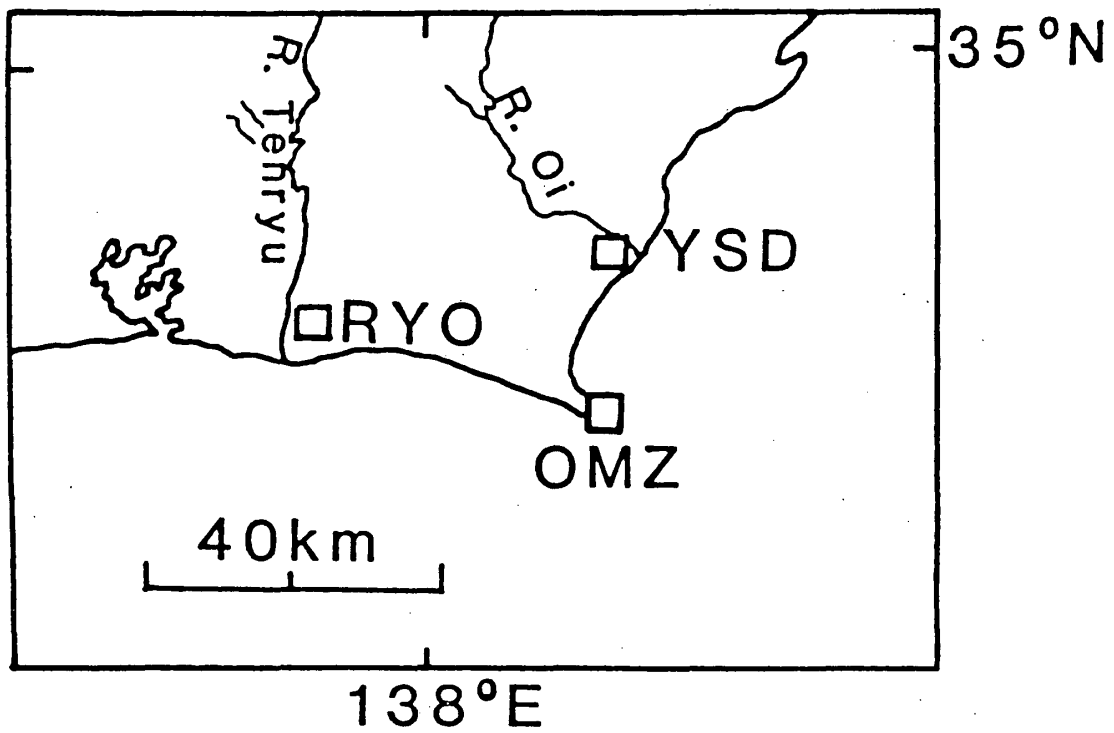
OMZでは大きな年周変化がみられる。これは主に、降雨に対するゆっくりとしたレスポンスであると考えられる。なお、旧装置の老朽化にともない、1991年2月末にラドン濃度連続測定装置を更新した。

YSDでは年間を通じてラドン濃度はほぼ一定で、めだつた変化はみられない。ただし、1992年7月末にラドン濃度がやや上昇しているが、これは地下水導入バルブの目詰まりのため流量が低下し、測定装置内の温度が上昇したために起こった、見かけの変化である。

RYOでは1週間程度の短周期の変動が卓越しているが、これは人工揚水の影響と解釈される。観測を中断した後ラドン濃度が高くなる傾向がみられる。これは揚水を中断すると、帯水層のラドン濃度が増大するためと思われる。なお、RYOでは1992年7月末に、観測井内の清掃(沈積した土砂の除去など)が行われた。

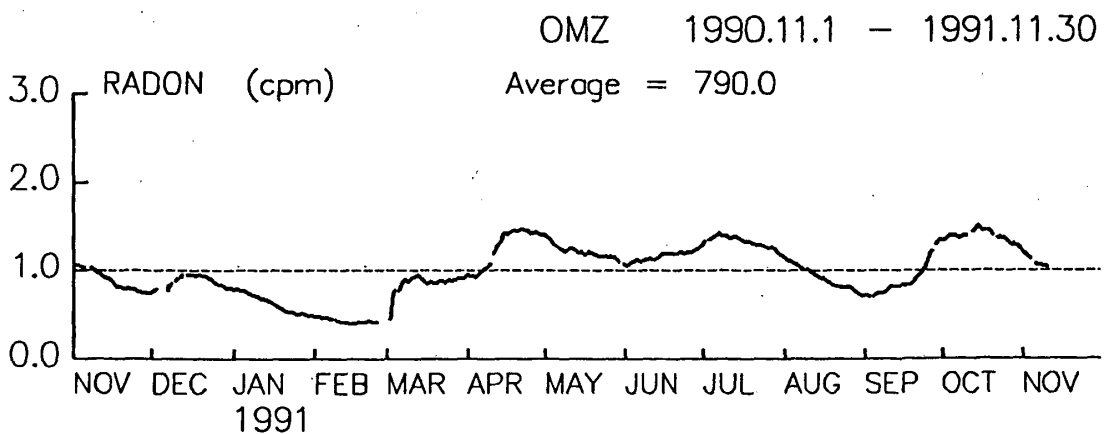
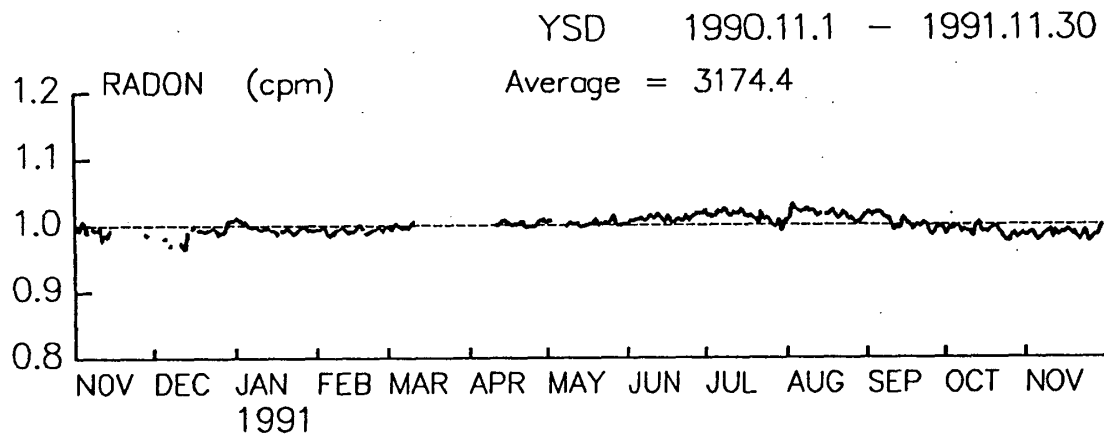
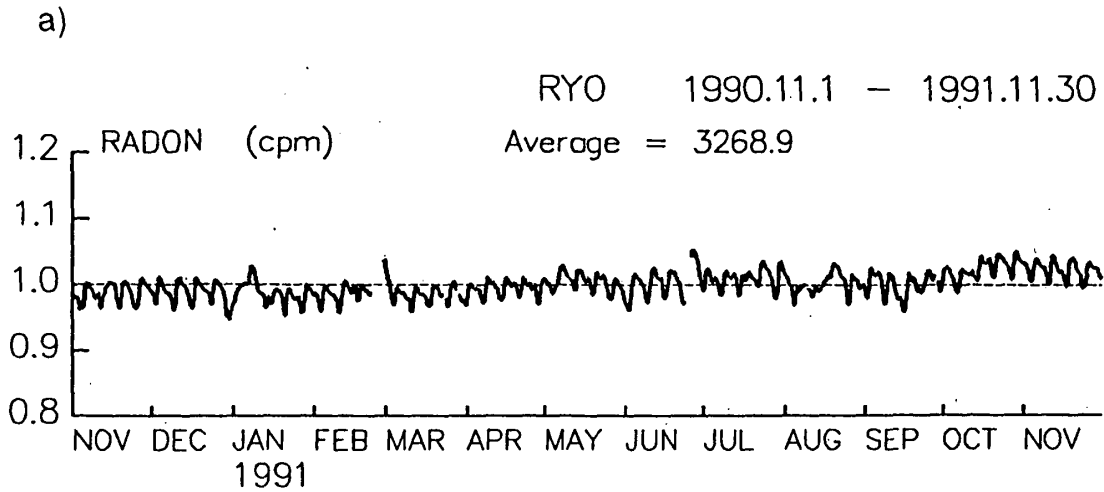
#### 参 考 文 献

- 1) 東京大学理学部：東海地方におけるラドン観測 (I X)，連絡会報，45 (1991)，356-357.



第1図 東海地方の地球化学観測点の位置

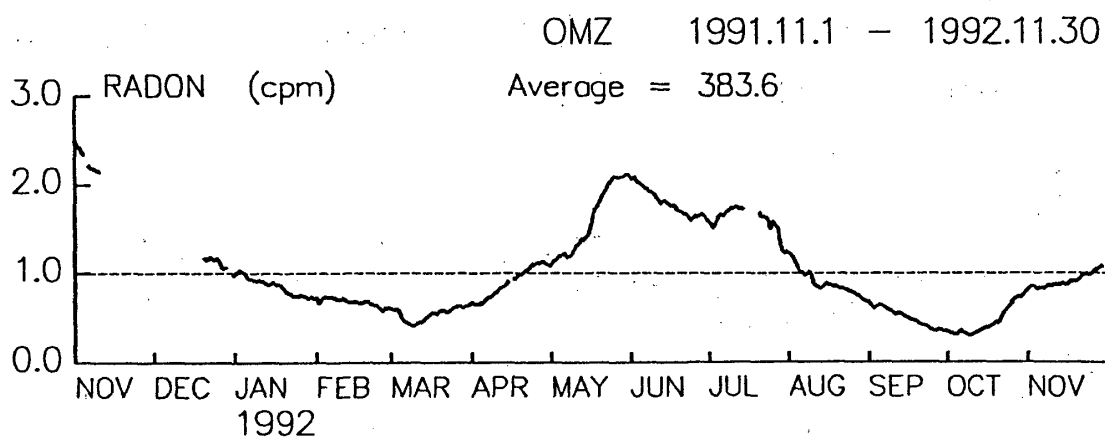
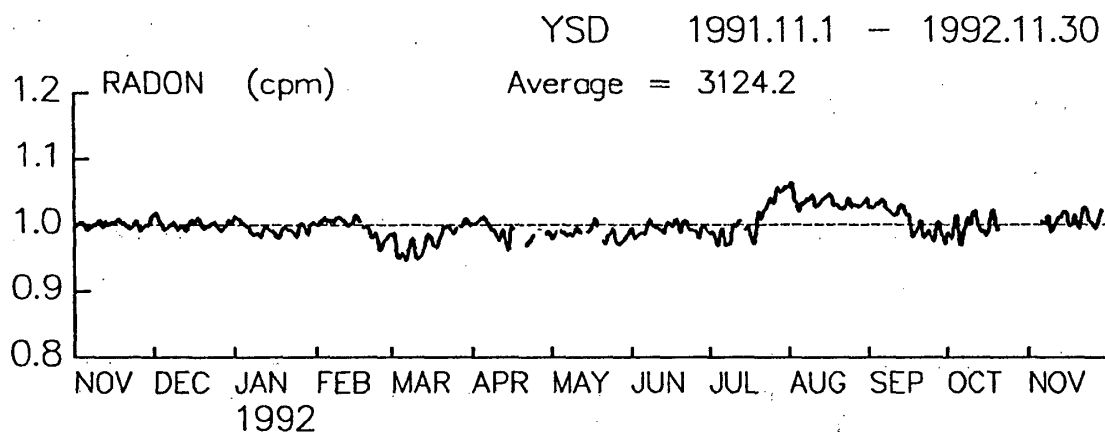
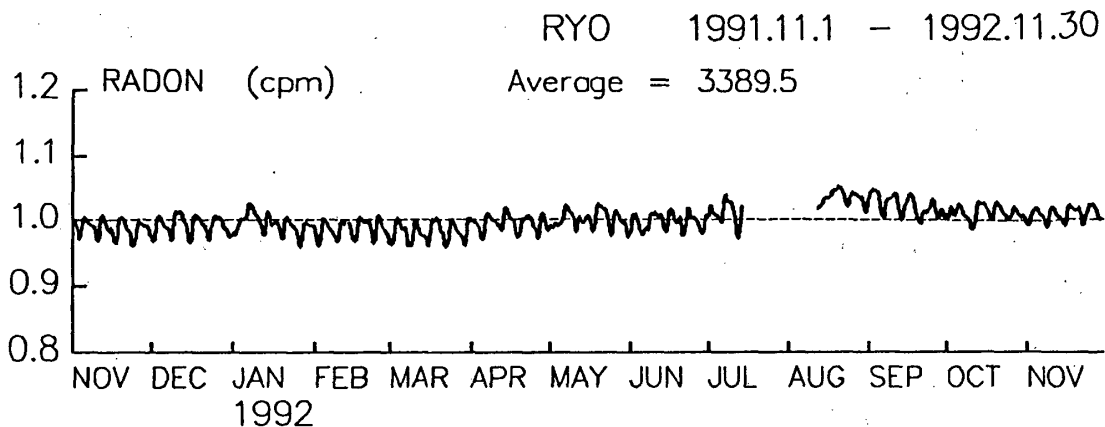
Fig. 1 Locations of geochemical observation sites in the Tokai district (RYO: Ryuyo, YSD: Yoshida and OMZ: Omaezaki).



第2図 RYO (竜洋), YSD (吉田), OMZ (御前崎) における地下水中のラドン濃度の変化, a) : 1990年11月~1991年11月, b) : 1991年11月~1992年11月。

Fig. 2 Temporal variations in the radon concentration in groundwater at RYO (Ryuyo), YSD (Yoshida) and OMZ (Omaezaki), a): November 1990 - November 1991, b): November 1991 - November 1992.

b)



第2図 つづき

Fig. 2 (Continued)